

令和4年度版【学校評価資料】

総社西小学校

学校経営目標	具体的計画	令和2年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	
1 心の教育の充実	・ピア・サポートを通して、互いに支え合う人間関係をつくることのできる子どもを育てる。 ・児童アンケート⑦⑧ 「友達と仲よくしていますか。」 「友達と助け合っていますか。」 ア 自分から進んでピア・サポートができています。 イ できている。 ウ あまりできていない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	⑦ア61%+イ22%で83%(9%↓)の児童が「友達と仲よくしている」、⑧ア56%+イ32%、88%(6%↑)の児童が「友達と助け合っている」と回答している。縦割り掃除や縦割り班遊びや同学年ピア・サポートを通して子ども同士の認め合いができています。一方、人間関係の固定化により、親しい関係である反面、感情のコントロールの未熟さに起因したトラブルがある。	B	各月の第3週にSELを実施し、異学年ピア・サポートの実施・充実により、さらに協力し合うことができるようにしていく。計画的なSELとピア・サポート活動を組み合わせ年間計画を実施する見通しをもつよう呼び掛ける。	⑦ア76%+イ18%で94%(11%↑)の児童が「友達と仲よくしている」、⑧ア69%+イ24%で93%(5%↑)の児童が「友達と助け合っている」と回答している。1学期と同様、ピア・サポートを通して子ども同士の認め合いができています。	A	学んだスキルを生かし、異学年とのピア・サポートを計画的に行うことで、学校として協力しあうことができるようにしていく。クラスでのよいこと見付けや全校でのグッドビヘイビアカードの取組、異学年ピア・サポートや正木学級の児童とのよりよい関わりも継続していく。	・自己評価は適切である。 教師の意識の高さが子どもたちに伝わる。
	・SELを取り入れ、自分の気持ちをコントロールできる子どもを育てる。 ・児童アンケート⑩ 「いやなことがあったとき、自分の気持ちを落ち着かせることができますか。」 ア いつもできる。 イ できる。 ウ あまりできない。 エ できない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	ア59%+イ33%で92%(3%↑)の児童が肯定的回答である。SELでスキルを習得し、生活の中で生かすことができていると感じている。しかし、10%程度の否定的回答がある。	A	自己肯定感が低い児童を把握し、認めたり、賞賛したりして、より丁寧に関わる。児童の向社会的スキルの向上を図る。今後も、SELを各学年で計画的に実施していきたい。	ア41%+イ36%で77%(15%↓)の児童が肯定的回答である。前回と比べ否定的回答が増えている。	B	計画的にSELとピア・サポート活動を繋げて繰り返し行うことで、より効果的に行っていく。学習や生活面において、日々の頑張りと成果を細やかに評価していく。	・自己評価は適切である。 児童にはいけないことの分別が付けばよいのでは。また、感情のコントロールは大人でも難しい。時間が必要である。 視点を変えれば、すべてがピア・サポートである。
活2 習健康のたく 成くま やまし 保し健 ・子ども 安全指 を導育 の充実 ため に基本 的生	・げんきな子カードを活用して規則正しい生活をしようとする子どもを育てる。 ・児童アンケート⑬保護者アンケート⑦ 「早寝・早起きができていますか。」 ア いつもできている。 イ だいたいできている。 ウ あまりできていない。 エ できていない。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	⑬の肯定的回答は、児童ア71%+イ16%で87%(5%↓)、一方、⑦の肯定的回答は、保護者ア57%+イ25%で82%(2%↑)と、5ポイントの差がある。	A	夏休み明けの生活しやきと週間で各担任から声掛けを行い、生活のリズムを修正するよう促す。課題のある児童に個別に声を掛け、家庭と連携して意識の向上を図る。	⑬の肯定的回答は、児童ア42%+イ31%で73%(1学期と比較して14%↓)、一方、保護者ア57%、イ22%で79%(3%↓)と、6ポイント差がある。	B	「元気な子通信」で2学期までの各クラスごとの結果や家庭からの意見を共有し、冬休み明けに養護や保健委員会の取組により、生活習慣の大切さを伝え、生活しやきと週間で各担任からも声掛けを行う。特定の児童には家庭にも呼び掛けをする。	・自己評価は適切である。
3 確かな学 力の育 成	・縦割り遊びの始めにCDを流し、柔軟を含めた体操を実施することで、児童の柔軟性を高める。 ・6月の体力テストと3学期のミニ体力テストの長座体前屈の結果	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	毎週水曜日に縦割り班遊びを実施することができ、全校で体操ができた。また、学級遊びを計画したり、遊びを紹介したりして、外で遊ぶことへの関心・意欲が高まるようにした。	—	今年度の体力テストの結果、全体的な向上がみられたが、柔軟性と握力に課題があった。縦割り班遊びの際に、体育委員会を中心に柔軟を主軸とした体操を取り入れ、体育の準備運動にも組み込んでいく。	—	2月にミニ体力テストを行った結果、ほとんどの学年で向上した。今後もアクティブ体操の動きを準備体操に取り入れ、継続して実施していく。	・評価不能は適切である。	
	・伝え合う活動を取り入れた協同学習を中心とした授業づくりを通して、授業がわかると思える児童を育てる。 ・児童アンケート③⑤ 「算数の授業がよくわかりますか。」 「授業中自分の考えを友達に伝えることができていますか。」 ア はい。 イ どちらかと言えばはい。 ウ どちらかと言えばいいえ。 エ いいえ。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	肯定的回答が、③ア62%+イ26%で88%、⑤ア51%+イ30%で81%という結果から、児童が自分の考えを伝え、授業内容を理解していると感じているという結果が出ている。しかし、⑤については、約20%の児童が否定的な回答をしており課題である。	A	個人思考において書く活動の時間を確保し、ペアやグループでの学び合い、ICTの活用を積極的に取り入れたりすることで、授業改善に一層取り組む。児童が「話し合いたい」「伝え合いたい」と思える場面を設定した授業づくりを行っていく。	肯定的回答が、③ア61%+イ30%で91%(1学期より3%↑) ⑤ア53%+イ30%で83%(1学期より2%↑) 自分の考えを伝え、授業内容を理解していると感じていることができていくという児童が増えた。	A	ICTの利便性や即効性を生かし、学習に取り入れる授業づくりと、児童相互の協議が広がったり深まったりする発問や、支援を工夫する。	・自己評価は適切である。 継続することで次年度に期待する。

令和4年度版【学校評価資料】

総社西小学校

学校経営目標	具体的計画	令和2年度の達成基準	自己評価(中間)			自己評価(最終)			学校関係者評価
			達成状況	評価	改善策	達成状況	評価	改善策	
3 確かな学力の育成	・読書タイムや週末家庭読書の取組を通して、読書をする習慣がついている児童を育てる。 ・児童アンケート⑥保護者アンケート④「1週間で2冊以上本を読んでいますか。(学校・家庭)」アはい。 イどちらかと言えばはい。 ウどちらかと言えばいいえ。 エいいえ。	ア+イの児童が学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	⑥ア68%+イ13%で81%(児童)④ア48%+イ23%で71%(保護者)が読書をしていると感じている。	B	図書室で借りた本は、児童机にかけておき、少しの空き時間ができた時に、手軽に読めるようにしておく。土日の宿題に「読書」を取り入れ、週末は必ず、図書室で借りた本を持ち帰るようにする。読書通帳の活用や、おすすめの本の紹介、読書週間等の図書委員会の取組や各学級の係活動の取組等の充実だけでなく、家庭への読書習慣づくりの呼び掛けを行う。	⑥ア66%+イ19%で84%(児童)④ア52%+イ14%で67%(保護者)が読書をしていると感じている。読書通帳や図書委員会の取組は児童の読書の意欲付けに繋がったが、今後は家庭読書充実への継続的な取組の強化が必要である。	B	中間期の取組が充分徹底できていない。学校全体での取組として全職員で見直し、徹底していきたい。家庭との連携として、図書だよりで児童の読書の様子を伝えるだけでなく、HPにも掲載していく。	・自己評価は適切である。 保護者の協力が得られる取組が必要。2～3年かけて徐々に向上するように継続してほしい。
4 活力ある学校づくり	・学校だより・学年だより・HP・メールなどの内容やタイミングを工夫することにより、西小の教育方針や様子が保護者に分かりやすく伝わるように努める。 ・教育アンケート⑩⑪(保護者)ア十分できている イおおむねできている ウやや不十分	ア+イが学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者アンケートの結果は、⑩ア49%+イ45%で94%(5%↓)⑪ア45%+イ45%で90%(5%↓)昨年度よりは減少したものの多くの保護者が肯定的回答である。学校だより、学年通信、メール配信、HP等で情報を発信している。	A	HPについては、学校行事や日々の取組や児童の様子も発信していく。今後も迅速に必要な情報を共有し、取組についての理解が進むよう、家庭との連携に努めたい。	保護者アンケートの結果は、⑩ア46%+イ49%で95%(1%↑)⑪ア51%+イ42%で93%(3%↑)であり、多くの保護者が肯定的回答をしている。	A	引き続き、学校の取組や児童の様子とともに、ねらいや過程も伝え、さらに取組についての理解が進み協力が得られるよう、家庭との連携に努めたい。	・自己評価は適切である。
れる開かれた学校づくり	・関係機関、保護者、地域の人材等を講師や協力者として活用し、教育活動の充実に努めるとともに、本校教育活動への理解を深める。	・教科、総合的な学習、行事等に関わった地域、その他の人材の数。 のべ人数が A 150人以上 B 120人以上 C 90人以上 D 90人未満	放課後学習、福祉学習、地域学習、児童支援、環境整備などについて、のべ約78人の方に協力していただくことができた。	—	新型コロナウイルス感染防止対策に留意しながら、必要な人材活用を精選して実施していく。また、適切な時期に募集を行い、人材バンクを整えたい。□	保護者、地域の方、学生、総社市関係機関等と連携し、のべ136人の方に協力していただくことができた。	B	中心となっていたいただける地域の方に協力を仰ぐとともに、連携の仕方の原案を作り来年度に備えたい。担任から必要な支援を把握し、年間指導計画に位置付け、必要に応じて使用できる情報を共有できるようにしたい。	・自己評価は適切である。
域に信頼さ	・資質向上のため、職員のニーズに合った研修の機会を積極的に設ける。 ・年間の校内研修の実施回数(校内研究授業除く) ア 10回以上 イ 8、9回 ウ 6、7回 エ 6回未満	A ア B イ C ウ D エ	毎月、研究主任を中心に計画を立て、18回の研修を実施することができた。夏季休業中の全体研修会でも、ICTの導入、算数科の授業づくり、生徒指導、道徳、総社っ子応援プロジェクト、学力向上、人権教育、不祥事防止等の内容で各担当が中心となり研修を実施し、資質の向上が図れた。各分掌担当から積極的に研修を実施するように働きかける。	A	今後必要なスキルや知識等を予想し、計画された時間の枠に入るよう優先順位を付け、柔軟に取り組む。必要な内容を焦点化し、早目の計画を心掛け、継続的に取り組む。	研究授業を除き、年間20回以上の研修を実施することができた。職員同士がコミュニケーションを取り、早期に計画を立てることで実施しやすくなった。	A	今後も必要な研修について各担当者を中心に計画を立て、実施できるようにしたい。また、研究授業が1月までに終了できるように計画づくりを行い、基礎基本を踏まえた児童の主体性を育む教育力の向上を目指したい。	・自己評価は適切である。
性5保ある小教がを連携進す連続	・「まず行動」「さわやかあいさつ」「きょうりよくなる心」を柱にして、保幼小中が共通の認識のもと、子どもたちを育てる。 ・教育アンケート(保護者)ア十分できている イおおむねできている ウやや不十分 エできていない	ア+イが学校全体の A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	保護者アンケートの結果では関係項目(③家庭学習89%(4%↑)・⑤あいさつ95%(3%↑)・⑦睡眠82%(2%↑)・⑧朝ごはん99%(2%↑)・⑨メディアコントロール85%(4%↑)と、すべて80%を超え、昨年度よりも向上している。⑦と⑨についても、改善の傾向であるが、⑨では児童の否定的回答が22%と課題がある。	A	幼小中間の情報交換を行い、他校等の取組のよさを取り入れ、さらに徹底に向けて工夫する。課題の有る児童へのメディアコントロールの具体的な指導と家庭との連携を強化していく。	保護者アンケートの結果では関係項目(③家庭学習74%(15%↓)・⑤あいさつ91%(4%↓)・⑦睡眠79%(3%↓)・⑧朝ごはん98%(1%↓)・⑨メディアコントロール76%(9%↓)と、前期よりも下降している。⑦と⑨については、昨年度の後期と同様の結果である。	B	児童の意識は向上したが実践が伴うよう、さらに具体的な指導と家庭との連携が必要である。	・自己評価は適切である。 家庭を巻き込んだ取組が必要である。